

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

- 1 確かな学力を携えて、社会に貢献できる多様な人材を育成する。
- 2 それぞれの夢に展望を持たせ、自らの力でそれを実現できる生徒を育成する。
- 3 他者の痛みがわかる、やさしく心豊かな生徒を育成する。
- 4 美化意識や規範意識を高く持ち、自己管理が出来る生活習慣を確立できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 地域に根差した高校として、確かな学力の育成することでそれぞれの進路実現に対応する

(1) 進路目標を意識し、「わかる授業、考える授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 公開授業や研究授業、授業アンケートなどを効果的に活用し、授業改善に取り組み、各教室のディスプレイなど ICT 機器を活用した授業改善にも一層取り組む。→平成 26 年度生徒向け学校教育自己診断における授業満足度 76% (普総選高校アンケート 80%)

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度 (平成 25 年度 52%) を毎年 5% 引き上げ、平成 28 年度には 70% にする。

イ できる範囲での進路目標ではなく、それぞれがより高い進路目標をめざす。

※国公立大学、難関大学、看護学校合格者や公務員就職者実績を毎年出す。→国公立大学 (得点率 62% の生徒もこれから 2 次)、看護専門学校 9 名、公務員府警 1 名。

(2) 普通科総合選択制の改編を見据え、将来構想の方向を打ち出す。→普通科専門コースを想定し、カリキュラム (仮) 作成。

(3) 教育活動とその成果を地域に発信していく。→学習発表会など徐々に公開拡大。

2 思いやりの心を育てる

(1) 人の気持ちが理解できる志学や人権教育を計画立案する。

※対人関係に起因するトラブルを (平成 25 年度 3 件) を 0 件にする。→平成 26 年度 2 件。(生徒指導案件全部で 6 件)

3 心安らげる学校づくり

(1) 規範意識をさらに醸成する。

ア 遅刻・早退・欠席はもちろん、基本的な生活習慣を確立する。

※全学年年間総遅刻件数 (平成 25 年度 5,931 件) を毎年 1,000 件ずつ減らし、平成 28 年度には 3,000 件にする。→平成 26 年度 5,604 件。

(2) 美化意識を醸成し、清潔で整備された教育環境を実現する。

ア 日々の清掃活動の充実を図り、施設の維持管理や設備の更新に積極的に取り組み良好な環境づくりをめざす。

※有志による清掃活動参加率 (平成 25 年度 13%) を毎年 5% ずつ増やし、平成 28 年度には在籍生徒数の 30% にする。→平成 26 年度 15%。

※警報や断線などのトラブル (平成 25 年度 4 件) を平成 26 年度は 0 件にする。→警報・断線トラブルゼロ。

(3) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成し、学校生活の充実と学校への帰属意識を高める。

ア 部活動やボランティア活動を通じて、集団の中で活動することの重要性を見出さす。

※部活動参加率 (平成 25 年度 53%) を毎年 5% ずつ引き上げ、平成 28 年度には 75% にする。→平成 26 年度 46.9%。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>◇生徒、保護者、教員を対象に実施。</p> <p>保護者からの回収率は、一昨年度 36.2%、昨年度 54.8%、今回は 61.2%と、一昨年度から 25 ポイントも上昇し、保護者の学校への関心も年を追うごとに高まっていることが伺える。</p> <p>【学習指導等】・授業に対する理解度の設問で、肯定的評価が、生徒 56.8%、教員は 68.4%と、その回答に差異が見られた。生徒が自分のみを考え、教員は担当する生徒全員を見て回答するから、ある程度の差異はあり得る。しかし、教員としても肯定的評価を 8 割以上にし、ほとんど理解できていない生徒をなくするための授業改善が必要であると思われる。(注) 生徒の肯定的評価は、昨年度 52%、一昨年度 46%と毎年上昇している。</p> <p>【生徒指導等】・教育相談について「先生は親身になって相談に乗ってくれる」という設問で、肯定的評価が、生徒 47.2%、教員は 78.9%と、その回答に大きな差異が見られた。</p> <p>特に生徒の「全くあてはまらない」の回答が、12.7%。教員は教育相談体制や SC の来校により相談体制はできていると思っているが、生徒はそう感じていないようだ。この結果を真摯に受け取り、教員一人一人のカウンセリングマインドをより向上させるべき方を検討しなければならない。</p> <p>・人権教育について「命と人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」という設問では、生徒の肯定的評価が、一昨年度 34%、昨年度 48%、今回 55.3%と一昨年度と比較して 20 ポイント以上の上昇である。これについては、「思いやりの心を育てる」という中間的目標に向けて、教員が人権教育に力を注いできた結果であると思われる。</p> <p>・防災訓練に関する設問でも、生徒の肯定的評価が、一昨年度 37%、昨年度 51%、今回 56.8%と、これも一昨年度より約 20 ポイント上昇している。まだまだ、低い数字かもしれないが、これは「心安らげる学校づくり」という中間的目標、安全安心な学校をめざして、実践的防災教育支援事業にも参加して防災教育の充実に努めてきた成果と思われる。</p> <p>【学校運営】・「学校の教育活動について日頃から教職員で話し合っている」という設問で、79%が肯定的評価であったが、これは一昨年度よりほぼ横ばいである。決して低い数字ではないが、教職員が常に話し合える職場環境を構築していくことを検討していくことが必要である。</p>	<p>【第 1 回：平成 26 年 6 月 5 日 (木)】</p> <p>「確かな学力について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 年生は 1 学期中間考査が終わって、緊張がほぐれてくる時期に勉強の癖がつくつかないかが決まる。生徒と保護者には、具体的な勉強方法を懇談などで個別に伝えていくようにすればよい。生徒たちは、何をどうすればよいのか分からないのであろう。勉強の取っ掛かりをみつけられるよう指導してみたらどうか。 ・生徒が「分りたい」と思える授業をしてほしい。 ・目先の目標を持たせて成功体験をさせる。 ・家庭学習が大切なので、そこへの工夫を期待する。 <p>【第 2 回：平成 26 年 10 月 16 日 (木)】</p> <p>「ビオトープ跡地の再利用や普通科総合選択制の改編について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で幼児や老人の方など地域の方々との交流できる施設にすればどうか。高校生でも有意義な活動になると思う。 ・今後の普総選の改編で、どのようなコースにするのかはっきりさせていかないと、施設の利用目的も明確にならない。まず、そこを早く決めてほしい。 ・何かに特化するよりも、「普通」をやっていくことの大切さが最重要化されているのではないかと。普通の「普通科」の高校にしていきたい。「普通」とは、就職、進学をそれぞれにおける普通の学力をきちんとつけること。すべての高校が特化してくると、「普通」なことが特色となってくる。 <p>【第 3 回：平成 27 年 1 月 26 日 (月)】</p> <p>「学校教育自己診断アンケート結果を受けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する理解度の点で、生徒と教員の感覚に大きな差がある。教員の質問で「全く理解していない生徒がいる」という項目を加えたらどうか。生徒の中で、全く解らないと言っている生徒もけっこういる。保護者の立場からすると、先生大丈夫かと思ってしまう。 ・教育相談においても、生徒と教員の回答で大きな差が出ている。生徒の多くが、先生は親身になって相談に乗ってくれていないと思っている。教員は、相談体制はできていると思っている。この違いを、教員は真摯に受け止めるべき。 ・入学前の合格者説明会で進路状況を保護者に伝える学校もある。1、2 年の早い段階で保護者に伝える経路を確立することが重要。可能性を知らせてトライさせていけば良い。

<p>・「常に自己研鑽し、自己の授業をはじめ教育活動の向上に努めている」という設問は、今回初めて付け加えた。これは、全教員に「教員は絶えず自己の研究と修養に努めなければいけない。」という意識を持ち、授業を初め充実した教育活動を展開してもらうのが目的で、100%を目標とする。</p>	
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
一 確かな学力の育成	(1) 「わかる授業、考える授業」をめざした授業改善 (2) 普通科総合選択制の改編を見据えた将来構想のまとめ (3) 教育活動とその成果を地域に発信	○かつてのビオトープエリア再利用について具体的な計画・実行に取り掛かる。 ○授業研究習慣を中心に、授業相互見学や研究授業の実施とその後の研究協議や振り返りシートの有効活用 ○授業支援や進路指導ため、さらに効果性の高い一斉配信システムを拡充・充実。 ○進路指導部とガイダンス室による基礎学力の定期的な測定（外部模試の実施）とその結果の教科などへのフィードバック ○学力伸長が実感できる授業改善のため、定期考査前補習や進学希望者のための補習の実施とともに、夏期進学集中講座を実施する ○大学・短大・専門学校との連携推進 ○それぞれの進路実現のサポート（一つ上の進路目標を意識する） ○家庭学習を促す（課題の利用など） ○配慮を要する生徒への評価方法の研究と支援 ○校内での将来構想委員会での論議と職員会議への提示 ○学習発表会を使用した地域への成果発表や普段の授業の公開 ○小中学校へ本校教育活動の紹介と連携強化	・ビオトープエリアの教育活動への再利用計画を煮詰め、予算の見積もりなどを行う。 ・授業アンケート結果を利用した授業改善への効果検証 ・教室に設置したディスプレイの活用（一斉配信を含み）をさらに充実し、年度末調査で満足度を50%にする。（平成25年度31.2%） ・国公立大学や難関大学にコンスタントに合格させる。 ・個別学習などを行い、公務員に毎年合格させる。 ・進路未決定者（進学浪人を含む）を20人以下にする。（平成25年度26人） ・家庭学習の時間を平均20分以上にさせる。 ・配慮を要する生徒の校外活動の回数を最低2回にする。（平成25年度1回） ・今年度前半での将来構想案の学校ホームページ等への公表 ・学校ホームページの月1回以上の更新 ・交流授業の回数	・ビオトープ跡利用計画を含め、改編を見据えた普通科専門コースの画を描いた。（教育課程骨子作成）（○） ・項目平均2.99授業アンケート（昨年2.97から微増）（○） ・ディスプレイ（一斉配信）利用満足度43.0%。（○） ・国公立大学結果待ち。阪南大学16名。大阪電子通信大学1名。（○） ・公務員府警1名。（○） ・進路未決定者割合（進学浪人を除き、平成26年度9.9%）（○） ・宿題等増加。家庭学習時間増加せず。（×） ・体に障がいがある生徒（2名）について、今年4月に神戸へ校外学習、6月に修学旅行（北海道3泊4日）に参加した。（○） ・改編に伴う教育計画（カリキュラム（案））の青写真までは作成できたが、学校HPへの公表はこれから。（△） ・学校HPは、年度前半不具合が続き更新できなかったが、後半は月1回は更新できている。（○） ・交流授業は実現できなかったが、見学の機会はほとんど持てなかった。（△）
二 思いやりの心を育てる	(1) 人の気持ちができる志学や人権教育の計画立案	○志学、キャリア教育を想定した総合的な学習の時間やホームルーム活動の充実 ○3年間を見通し、今必要な人権教育の再認識 ○過去の人権教育にとらわれず、新しい発想で今最も必要性のあるジャンルから見つめなおす人権教育 ○一斉配信システムを利用した志学や人権教育ビデオ活用の充実	・学校教育自己診断による志学やキャリア教育の成果を測ると同時に生徒の学校満足度を80%にする（平成25年度70%） ・今必要な人権テーマを扱ったHRや職員人権研修を年2回以上実施する ・ICT機器を有効に活用した人権教育を年2回実施する。 ・対人関係に起因するトラブルを0件にする。（平成25年度3件）	・学校教育自己診断学校満足度76%。（普総選アンケートでは80%）（○） ・7月にヘイトスピーチ、10月にセクハラをそれぞれテーマとした研修を行った。（○） ・ファイルの形式不適合で一斉配信システムを利用することは出来なかったが、各教室でモニターを利用して人権教材を提示することは出来た。各学年1回利用。（○） ・総生徒指導案件は6件と激減したが、その内対人関係に起因するトラブルの件数は2件とゼロにすることは出来なかった。（△）
三 心安らげる学校づくり	(1) 「規範意識の高い学校」をめざす (2) 「美化意識を醸成し、清潔で整備された教育環境を実現する。」 (3) 「部活動、ボランティア活動、生徒会活動などの特別活動の活性化」	○登下校指導による通学マナーの向上 ○声楽選択生徒による式典（始業式・終業式）での校歌斉唱 ○服装頭髪一斉指導の実施 ○保護者との連携を一層すすめることによる服装・頭髪・遅行指導の充実 ○PTAとの協力体制の充実 ○トイレ清掃を含めた学校内外美化活動の充実 ○昼食後歯磨きの薦め ○清掃活動の充実、歯磨きスペースの活用促進など生徒保健委員会のさらなる活性化 ○警報や断線トラブル撲滅 ○性感染症防止教育などの推進 ○部活動体験週間の充実 ○ボランティアや生徒会活動の紹介 ○地域中学校との交流を深める	・停学を伴う特別指導案件を25件以下にする ・全学年総年間遅刻件数を4,000件以下に ・生徒全員に歯ブラシを持たせ、生徒保健委員会を中心に啓発活動を進め、歯磨きスペースを活用する生徒の割りあいを5%以上とする。 ・有志生徒による一斉通学路清掃参加者を在籍数の20%に（平成25年度15%）、トイレ清掃参加者を20人以上に（平成25年度8人） ・警報や断線トラブルを0件にする。（平成25年度4件） ・年度初めの部活動体験週間を早めるなどして参加生徒率を55%以上にする（平成25年度53%） ・部活動について、中学校との合同練習の回数	・特別指導案件は6件と激減した。（◎） ・全学年総年間遅刻件数5,604件。（昨年より在籍数1.1倍を考慮しても）（△） ・生徒全体の歯磨きスペースの利用28.5%。（◎） ・通学路清掃参加率：第1回7/8_120人（17%）第2回12/11_85人参加（12%）、トイレ清掃16人。（△） ・H26健康教育推進学校表彰受賞（全国で高校6校）（◎） ・警報・断線トラブルなし。（○） ・部活動参加生徒率（平成26年度43.5%）（△） ・合同練習8回、今後も拡大展開予定。（○）